

8月に世界選手権が開催された愛知の森。そこでは次の日本を担う若い力が確実に育っていた。

日本学生オリエンテリング選手権大会  
ロングディスタンス競技部門  
2005年11月06日(日)  
愛知県新城市(旧作手村)

## 高橋雄哉 余裕の優勝



高橋雄哉(図書館情報大学4)

圧勝だった。2位を3分以上引き離して2005年最初の学生チャンピオンに輝いたのは高橋雄哉(図書館情報大学4)だった。

「笑いが止まらないです。今回の優勝は“してやったり”という感じ。今日はミスしても入賞、ミスしなければ優勝、だと思ってやりました。ミドルでも、もう1勝したい。」

高橋は表彰台の上でそう豪語する。みなぎる自信は入念な準備から生み出されているようだ。さらに高橋は上を目指す。

「今の自分の力がどのくらいかわからない。日本だけでなく、世界へ行きたい。このままの勢いでNT選手に勝ちたい。」

彼のスタイルは走って走って勝つオリエンテリングだという。2005年夏に愛知で見た世界の選手はとにかく走るのが速い。日本選手のレベルがもう

ひとつ上を狙うためには、高橋のように「走り」で世界に負けないスタイルが必要だろう。

## 図書館情報大学最後の煌き

高橋が名乗る図書館情報大学は茨城県つくば市に存在していた。・・・そう今はもう大学として存在していない。平成16年3月いっばいで図書館情報大学は閉学し、筑波大学に統合されている。

しかし図書館情報大学生として入学してきたメンバーが所属する「図書館情報大学オリエンテリングクラブ」はそのメンバーが全員卒業を迎えるまで存続し、現に日本学生連盟でも独立したひとつの加盟校として数えられている。しかし図書館情報大学 OLC の名前がインカレ出場校から消えるのは時間の問題である。

図書館情報大学自体の学生数は少ない。しかしながらオリエンテリングクラブの人数は多く、一時期、図書館情報大学の体育会系最大勢力だったという。今までも優秀なオリエンティアを輩出してきた大学クラブが消えてゆくのは残念だ。

図書館情報大学は女子選手権で過去に秋山裕子が何度か入賞している。だが優勝者は今まで出ていなかった。高橋雄哉がインカレ優勝者の歴史に図書館情報大学の名前を刻んだ。それはあたかも図書館情報大学の最後の煌きであるかのような。

### 男子選手権 8000m 620m

|   |      |      |         |
|---|------|------|---------|
| 1 | 高橋雄哉 | 凶情 4 | 1:19:52 |
| 2 | 後藤大輔 | 東北 4 | 1:23:10 |
| 3 | 大西康平 | 京都 3 | 1:23:49 |
| 4 | 山崎貴彦 | 東京 3 | 1:25:16 |
| 5 | 小林隆昭 | 千葉 4 | 1:25:34 |
| 6 | 永井亮  | 東北 3 | 1:26:07 |

## 原直子 3連勝

「事情によりほとんどトレーニングできない状況だったので不安だった。ただ当日は一生懸命走った。もともと体力はあるので、他の人と違っているところがあるなら“絶対に諦めない”という根性だったと思う。」



原直子(東京女子大学4年)はこうレースを振り返った。実際に原のレースを分析すると、確かに辛勝と言える。優勝はできたものの、2位の朴峠周子(東京女子4)にあと57秒にまで詰め寄られている。さらに今回4位になった森澤寿里(奈良女子4)にコース途中の8番コントロールまで約2分の差をつけられている。

昨年度、同じく愛知で開催されたインカレロング2004で2位の朴峠周子を8分離して圧勝した時とは状況が随分と違う。

これで原は2004年度のロング・ミドルそして2005年度のロングのインカレ3連勝を果たした。そして3月には原にとって最後の個人戦・インカレミドルを迎える。

「来年春は最後のインカレになるので悔いが残らないようにしたい。最後のこれだけやってきたんだという自信を持って当日は爽やかに迎えたい。チームメイトの東京女子のメンバーといつも楽しくワイワイとやっていて、その雰囲気のまま最後のインカレを迎えたい。」

### 女子選手権 4900m 390m

|   |      |        |         |
|---|------|--------|---------|
| 1 | 原直子  | 東京女子 4 | 1:05:00 |
| 2 | 朴峠周子 | 日本女子 4 | 1:05:57 |
| 3 | 築山絢  | 早稲田 4  | 1:07:00 |
| 4 | 森澤寿里 | 奈良女子 4 | 1:07:20 |
| 5 | 志度裕子 | 東京農工 4 | 1:08:43 |
| 6 | 橋本陽子 | 日本女子 4 | 1:10:57 |



母校の選手が素晴らしいパフォーマンスを見せて会場に姿を現すその瞬間を待つ。応援にも熱がこもる。

## 入賞メンバーの声

入賞したメンバーのインタビューを記録した。それぞれがインカレにかけの思いが伝わってくる。

### 男子2位 後藤大輔 (東北4)

2位には満足しているが、高橋君に3分差をつけられたのが悔しい。今回は夜行列車できた疲れもあり半分諦めていた。しかし後半は開き直って走れた。

春はリレーで東北大学は連覇を狙っている。東北大学は層も厚くなっている。選手権だけではなく併設でも東北はがんばるつもりだ。

### 男子3位 大西康平 (京都3)

優勝したかった。最後までがんばって走ったが力及ばなかった。春では1位を取れるように準備して結果を残したい。そのためには技術をもっとつけてミスを抑えたい。



選手権ランナーが会場に現われるころ天候は雨模様。巨大な屋根つきの会場は快適！

### 男子4位 山崎貴彦 (東京3)

優勝を狙っていたが、実力不足だったのでしかたない。春はがんばる。

### 男子5位 小林隆昭 (千葉4)

準備が不足していたところが出来なかった。入賞できたので嬉しい。

### 男子6位 永井亮 (東北3)

最後までがんばって走れた。6位という結果には満足できる。



すべてを出し切ったフィニッシュ。満足と悔しさがこみ上げる。

### 女子2位 朴峠周子 (日本女子4)

昨年のインカレロングと同じ順位だが昨年と全く違う心境。今までにないくらいの準備をしてきただけに、結果を受け止めるには時間がかかりそう。

支えてくれた多くの人に伝えられないところがあったけど、これからもう少しお願いします。

春にはリレーの2連覇がかかっている。これを皆さんと目指せることを楽しみにしている。

### 女子3位 築山絢 (早稲田4)

この場にいるのが信じられない。この順位は私を支えてくれた早大OCのメンバーにももらった順位だと思っている。

早稲田女子は春のリレーが走れないけどがんばります。

### 女子4位 森澤寿里 (奈良女子4)

今日はタフなトレインだったけど、すごく楽しくOLできた。

### 女子5位 志度裕子 (東京農工4)

8月以来のOLだった。準備しない割にできた。春インカレに向けて準備をしたい。

### 女子6位 橋本陽子 (日本女子4)

自分がここにいるのが信じられない。春に向けて準備します。

## 2005年度は愛知集中開催

2005年度、日本学連はインカレを愛知で集中開催している。

愛知世界選手権が終わったばかりのこの三河地方には正確な地図と通行可能度の良いトレインが存在する。ここ数年日本の0-map作成マンパワーの多くが愛知に注がれた。2005年度のインカレはこのすぐれた資源を活用する。

トレインの確保はできても、次の問題は運営者の確保だ。愛知県を含む東海地方の学生数やそのOB数はそれほど多くない。トレイン・地図はあるのにインカレ運営者の確保が最大の障害になる。

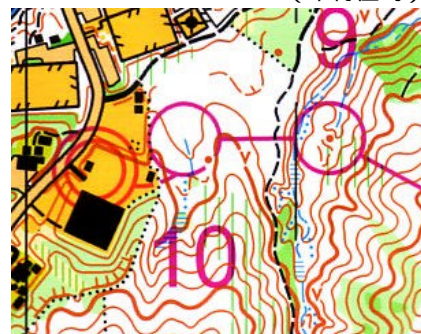
しかし、そこは東海地区外からインカレを運営する者たちが集まってくれた。このインカレロングの運営者は関西学連OBを中心に各地からはせ参じてくれた。こうした学生OB達のパワーが今のインカレを支えてくれている。

2006年3月には春インカレ(ミドル/リレー)が同じく三河高原で開催される。こちらの運営者は関東学連OBを中心に組織されている。

またまた三河の素晴らしいトレインでどのような学生のドラマが待っているのか、そして併設・一般を含め、どんなオリエンテーリングが楽しめるのか行ってみる価値があるだろう。

2005年のインカレとその併設大会は、愛知世界選手権の舞台を走る格好のチャンスなのだ。

(木村佳司)



三河の森はいい！